

令和4年度  
男女共同参画に関する  
市民意識調査報告書  
(概要版)

桶川市

# 令和4年度 桶川市男女共同参画に関する市民意識調査 概要版

## 調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識や実態を調査することにより、課題を把握し、今後の男女共同参画計画の策定及び男女共同参画施策の推進における基礎資料として活用することを目的とする。

## 調査の概要

### 《調査の設計》

- 調査地域:桶川市全域
- 調査対象:市内在住の満18歳以上の男女1,000人(令和4年9月1日現在)
- 抽出方法:住民基本台帳から無作為抽出
- 調査票送付方法:郵便
- 調査期間:令和4年10月5日(水)～10月31日(月)
- 回答方法:令和4年10月31日(月)までに郵送またはインターネット回答
- 回収数:383
- 有効回収率:38.3% ※うちインターネット回答 10.8%

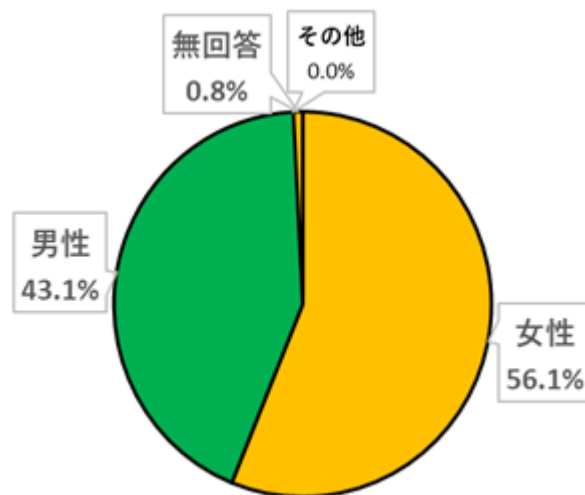
### 《調査内容》

- (1)男女平等意識・人権について
- (2)ワーク・ライフ・バランスについて
- (3)家庭生活について
- (4)配偶者等からの暴力について
- (5)地域参加・社会参画について
- (6)新型コロナウイルス感染症の影響について
- (7)男女共同参画を推進するための取り組みについて
- (8)自由意見

※構成比(%)は、各々の回答数を該当する全体数(複数回答の場合はその合計)で除した値で、合計値は100%にならない場合がある。

### 回答者の構成比

	基数	構成比
合計	383	100
男性	165	43.1
女性	215	56.1
その他	0	0.0
無回答	3	0.8

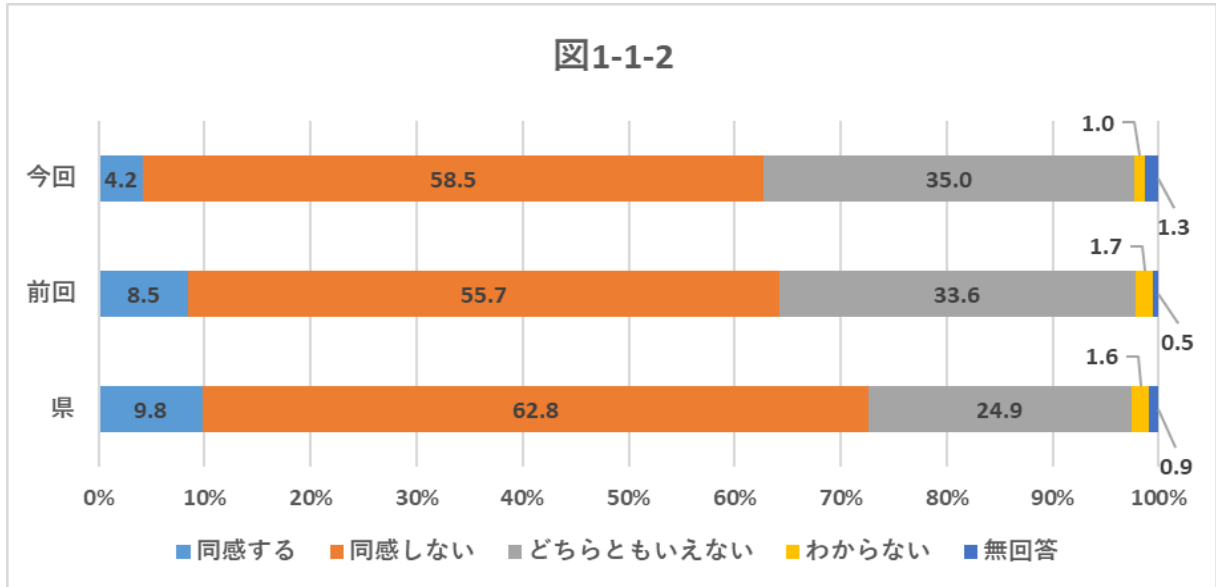


# 1 男女平等意識・人権について

## 「男は仕事、女は家庭」という考え方

〈前回と県との比較〉

「同感しない」の割合は、県に比べると低くなっている。「同感する」の割合は前回及び県の割合よりも低くなっている。

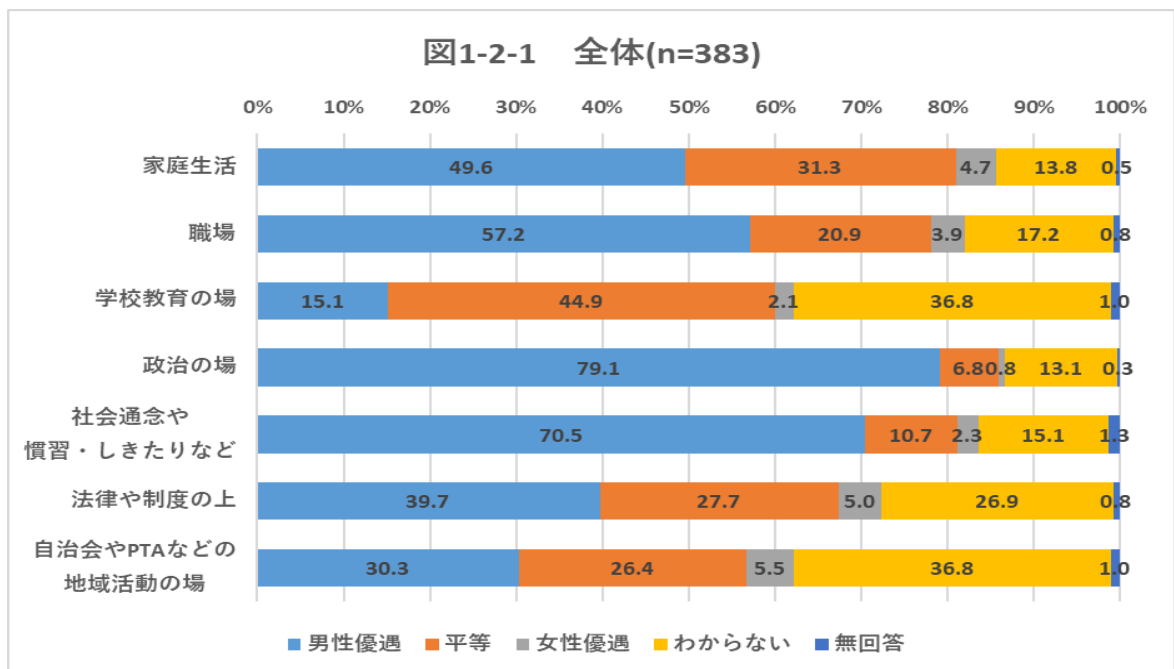


## 各分野における男女の平等感

全体では、「平等になっている」の上位は、『学校教育の場』が 44.9%、次いで『家庭生活』が 31.3% となっている。

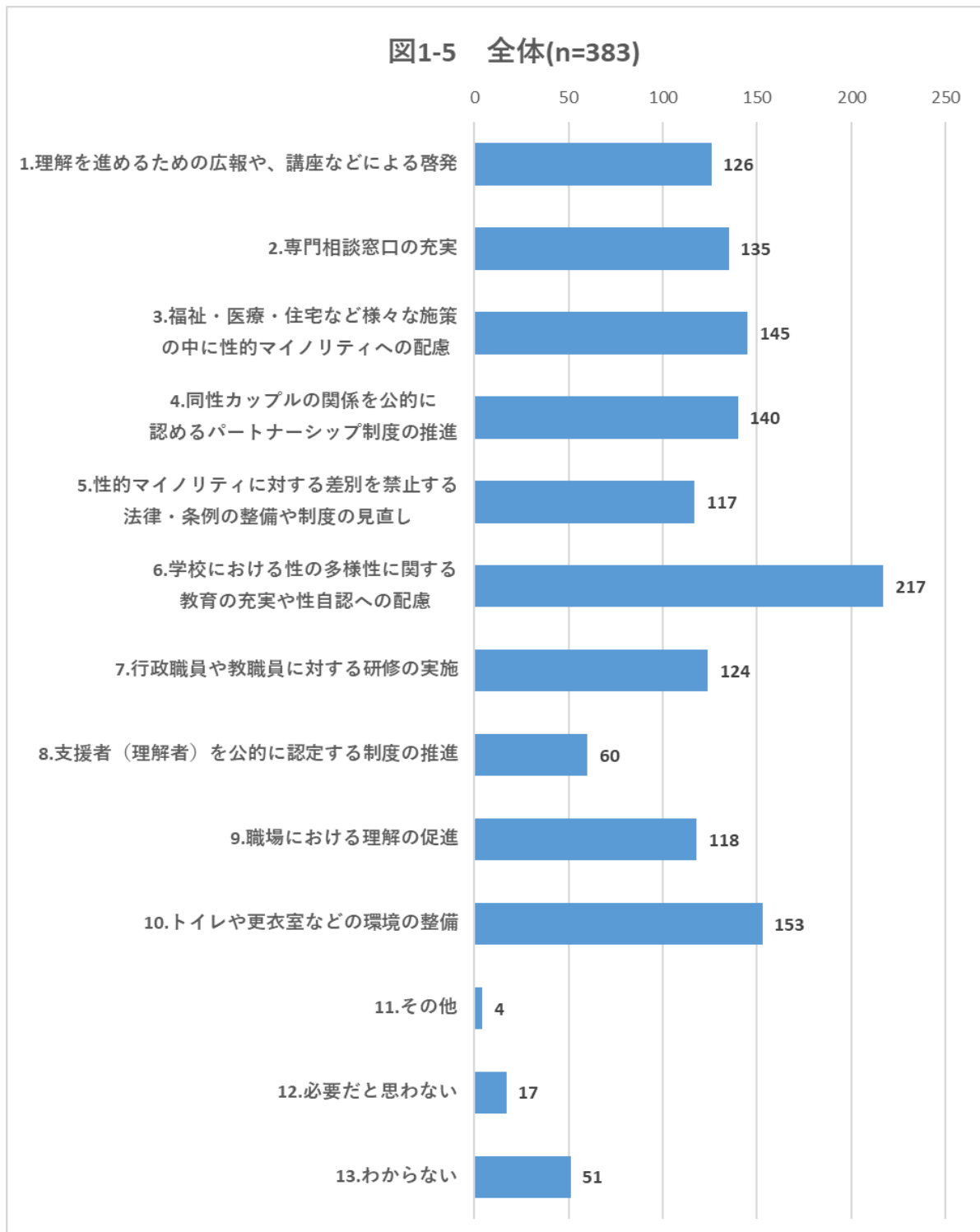
「女性の方が優遇されている」の上位は、『地域活動の場』が 5.5%、次いで『法律や制度』が 5.0% となっている。

「男性の方が優遇されている」の上位は、『政治の場』が 79.1%、次いで『社会通念や慣習・しきたり』が 70.5% となっている。



## 性的マイノリティ（LGBTQなど）の理解促進に向けた必要な施策

全体では、「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」が高く、次いで「トイレや更衣室などの環境の整備」高くなっている。



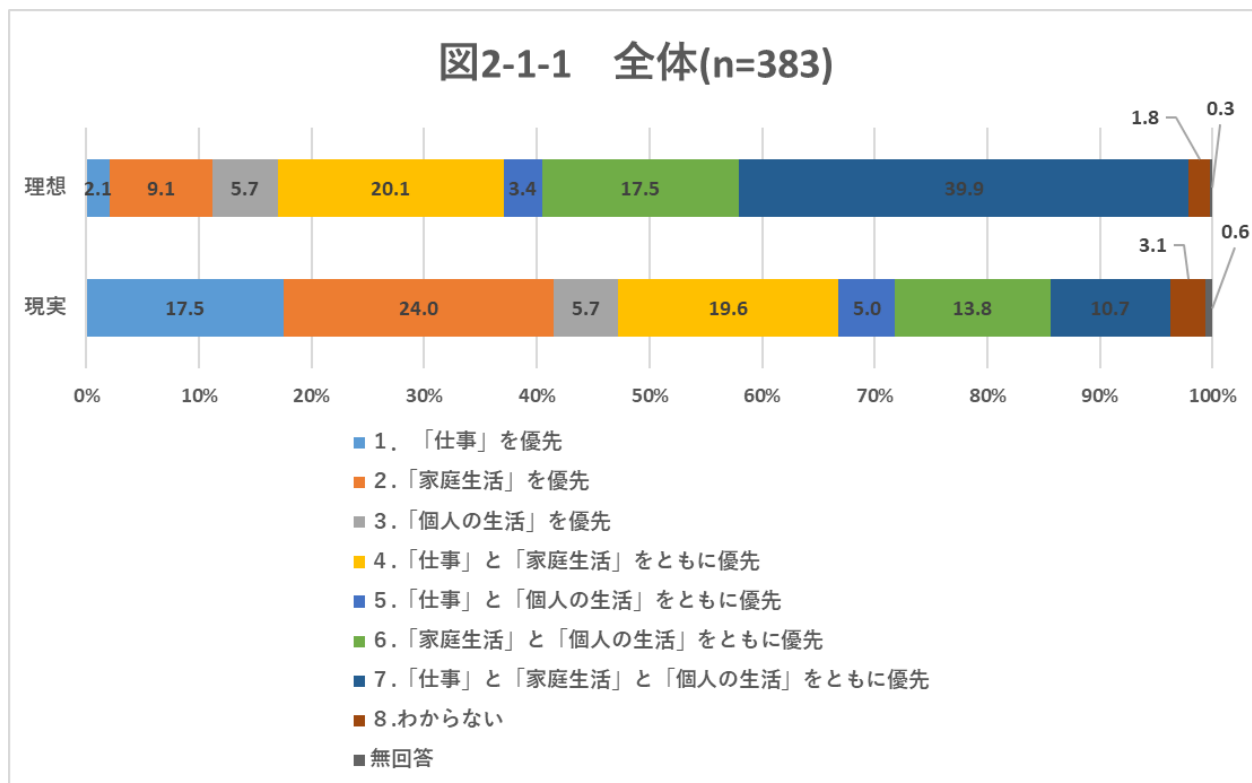


## 2 ワーク・ライフ・バランスについて

### ワーク・ライフ・バランスの理想と現状

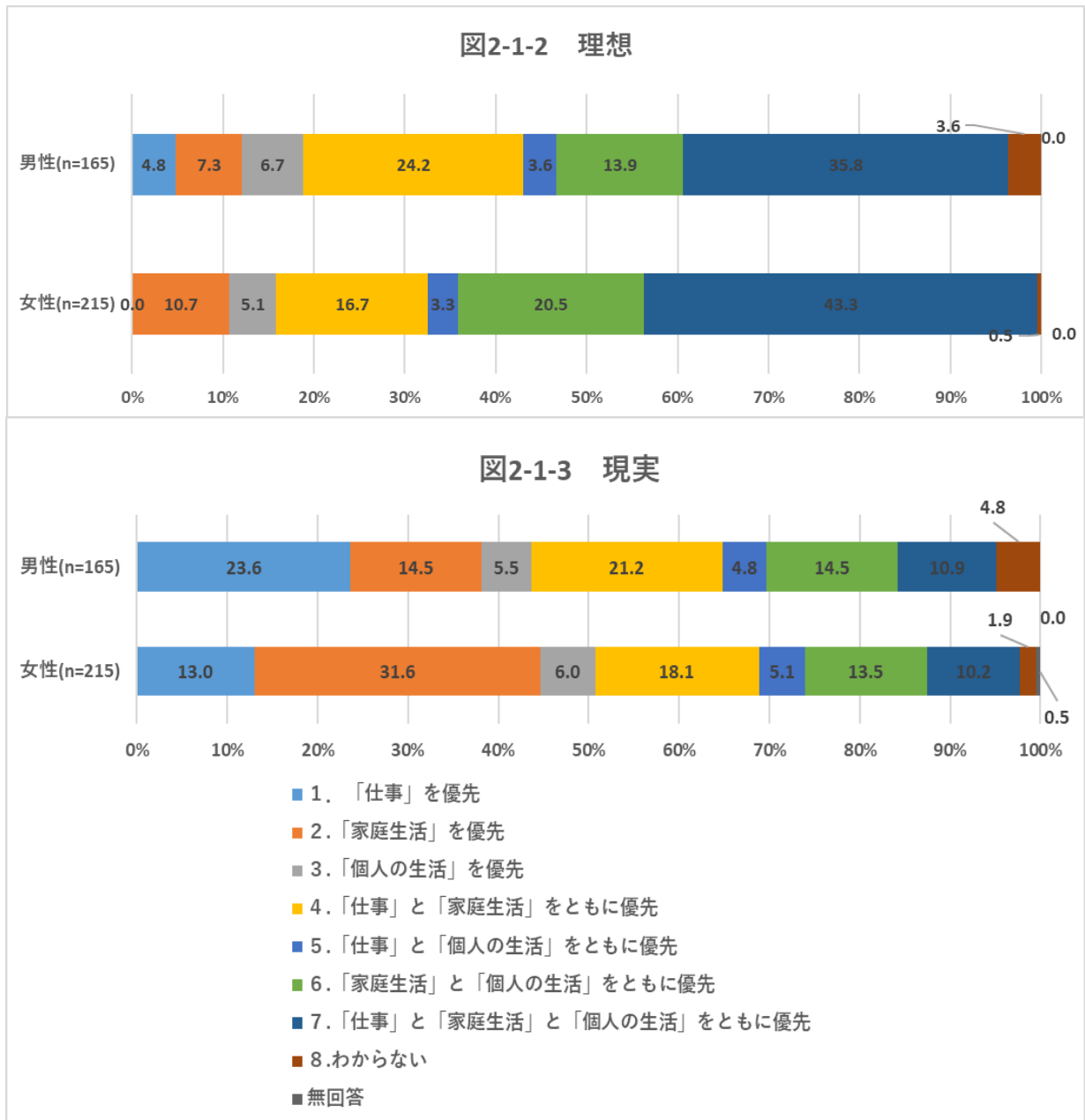
理想・希望に近いもので全体は、『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先』が高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が高くなっている。

現状に近いもので全体は、『「家庭生活」を優先』が24.0%、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が19.6%、『「仕事」を優先』が17.5%と続いている。



男女別に見ると、理想は、男女ともに最も高いのが『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先』で、次いで男性では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が高くなっており、女性では『「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先』が高くなっており、男女の考えに差が見られた。(図2-1-2)

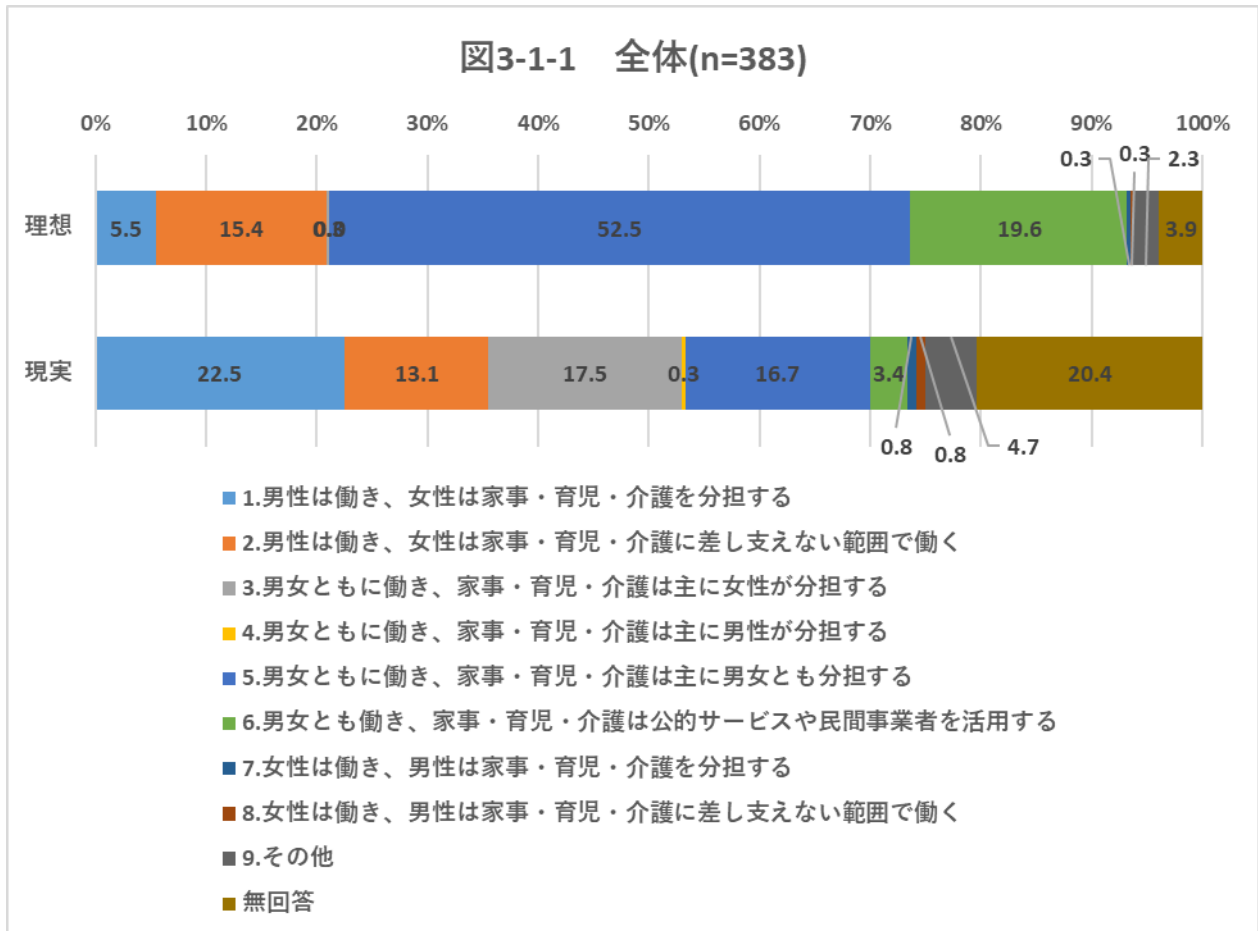
現実には、男性では『「仕事」を優先』が最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』となっている。女性では『「家庭生活」を優先』が最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』となっている。現実でも男女差が見られた。(図2-1-3)



### 3 家庭生活について

#### 家庭生活における役割分担の理想と現実

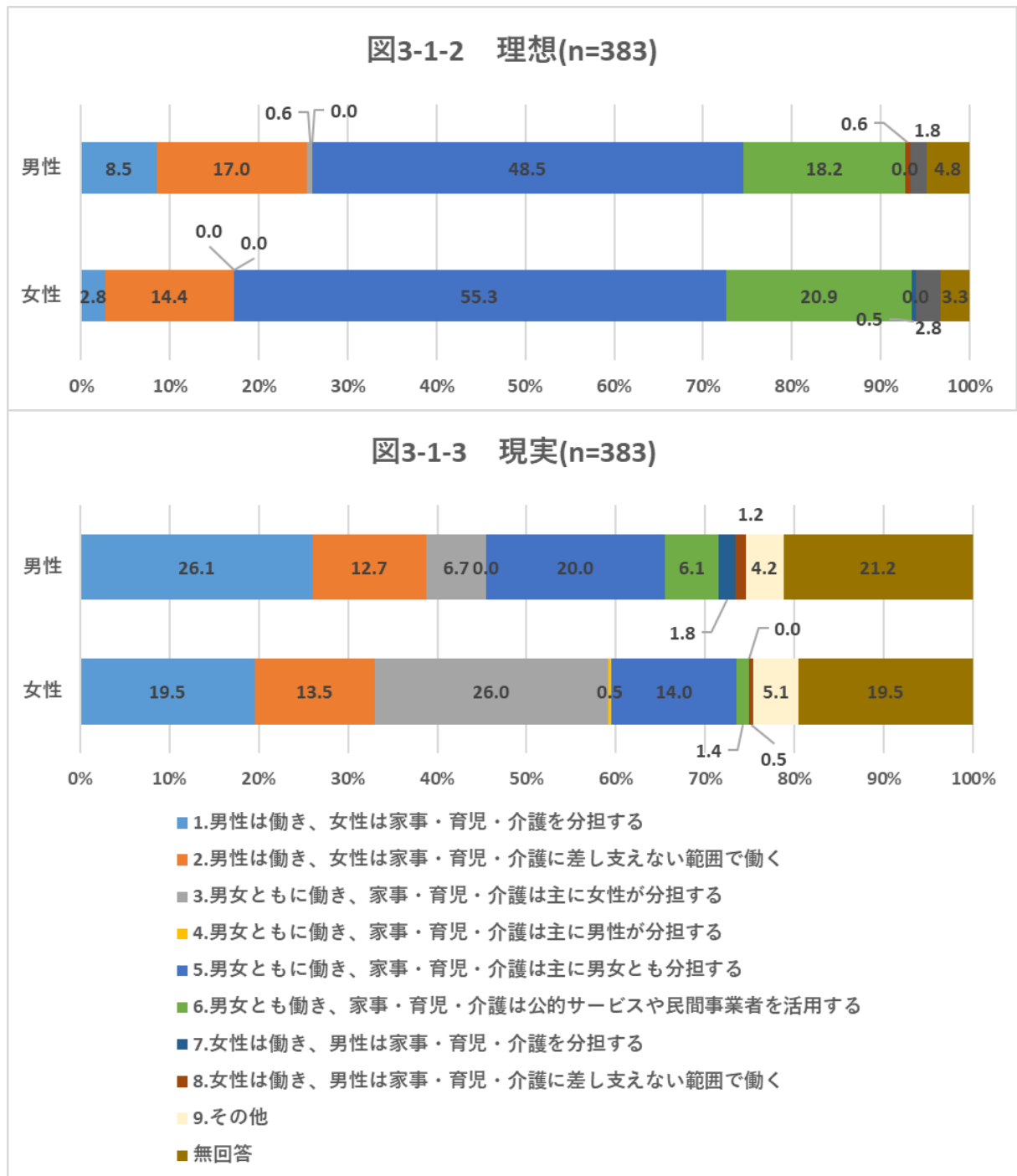
全体では、理想で「男女ともに働き、家事・育児・介護は主に男女とも分担する」が 52.5%と高くなっている。次いで「男女ともに働き、家事・育児・介護は公的サービスや民間事業者を活用する」が 19.6%となっている。現実で「男性は働き、女性は家事・育児・介護を分担する」が 22.5%と高く、次いで「男女ともに働き、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が 17.5%となっている。





男女別に見ると、理想は、男女ともに最も高いのが「男女ともに働き、家事・育児・介護は主に男女とも分担する」で、次いで「男女ともに働き、家事・育児・介護は公的サービスや民間事業者を活用する」「男性は働き、女性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で働く」となっている。(図 3-1-2)

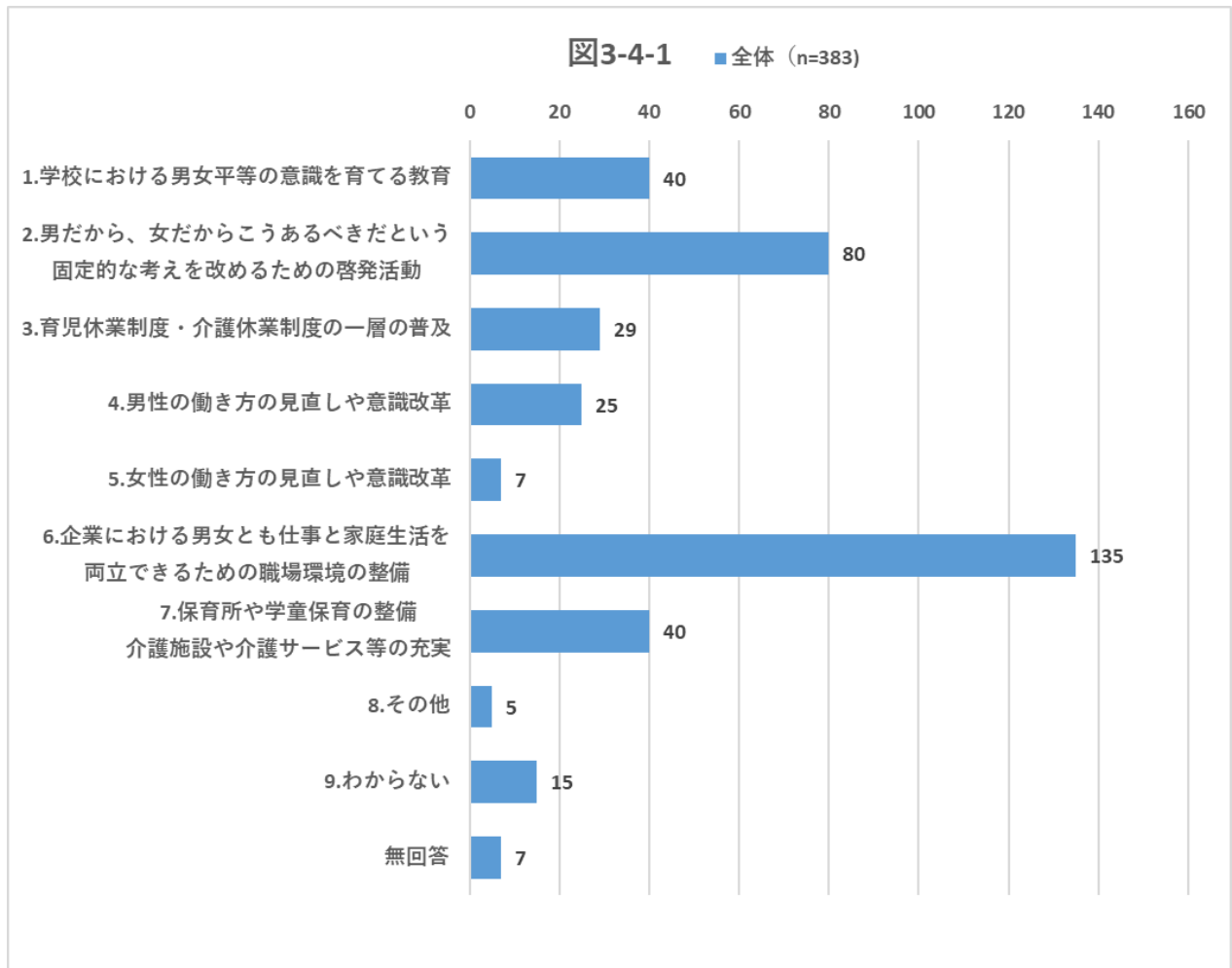
現実には、男性では「男性は働き、女性は家事・育児・介護を分担する」が 26.1%で最も高いが、女性では「男女ともに働き、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が 26.0%で最も高くなっており、男女で差がある。(図 3-1-3)



### 男女が家事・育児・介護をともに分担するために必要なもの

全体では、「企業における男女とも仕事と家庭生活を両立できるための職場環境の整備」が最も高くなっている。

次いで「男だから、女だからこうあるべきだという固定的な考えを改めるための啓発活動」が高くなっている。

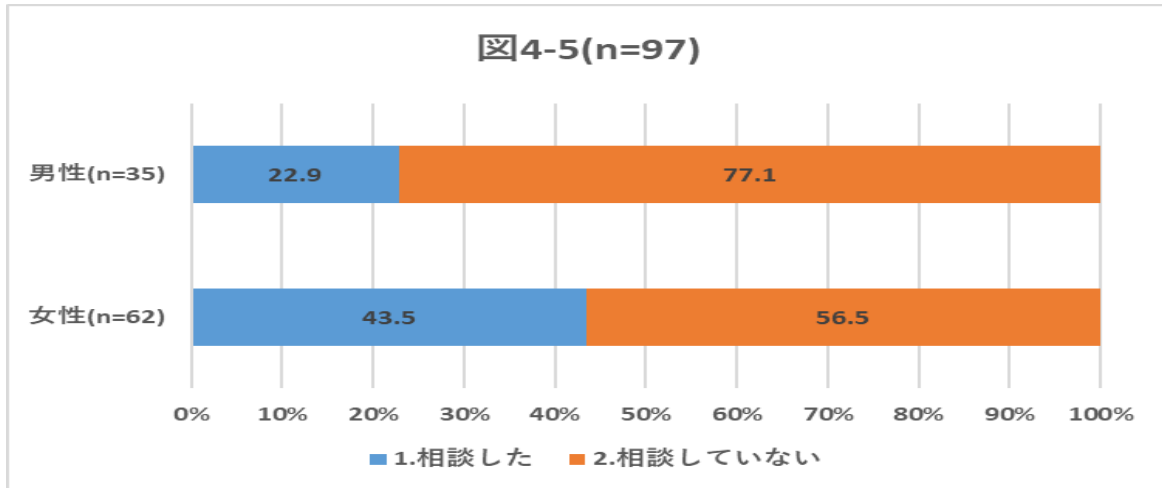


## 4 配偶者等からの暴力について

### 暴力について相談するという認識

男女別にみると、「相談した」は男性が 22.9%、女性が 43.5%で女性が男性を上回っている。

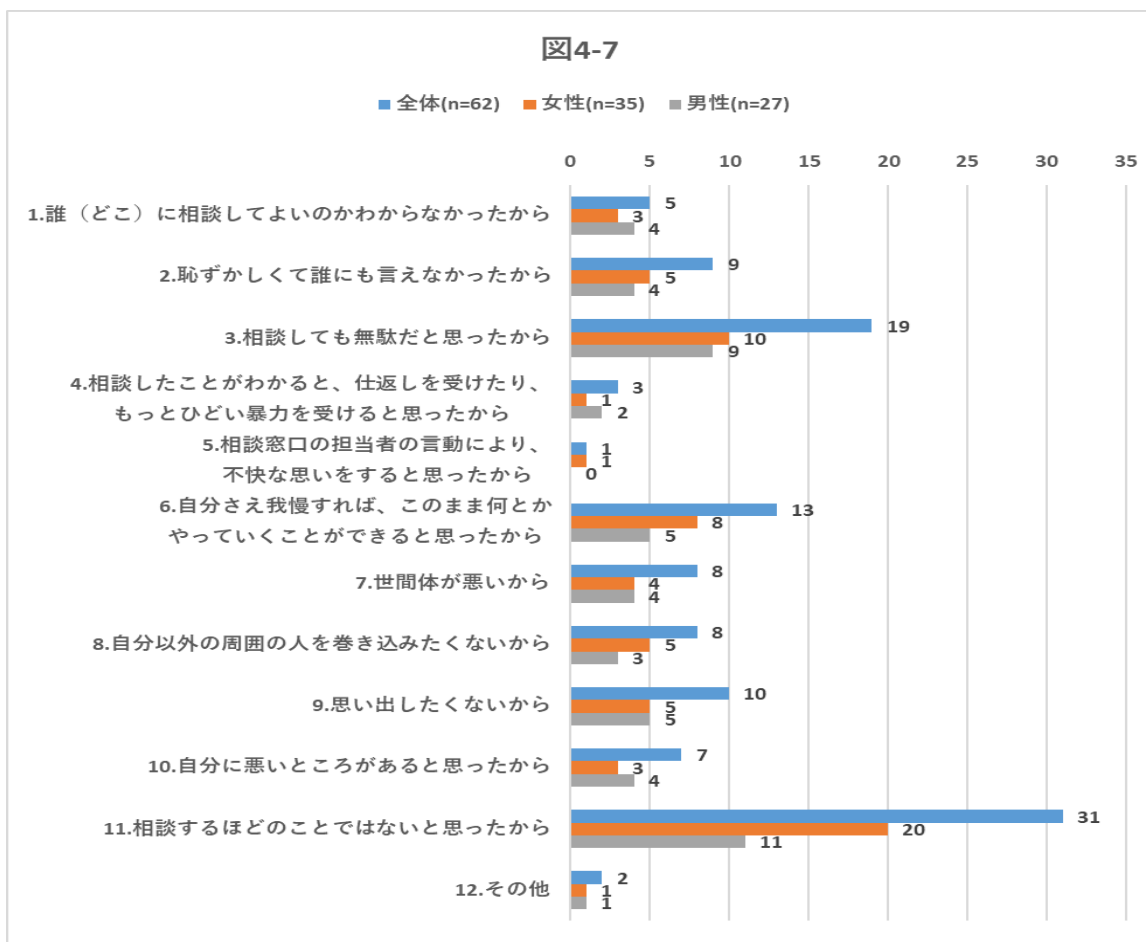
(図 4-5)



### 配偶者等からの暴力について相談しない理由

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が高くなっている。

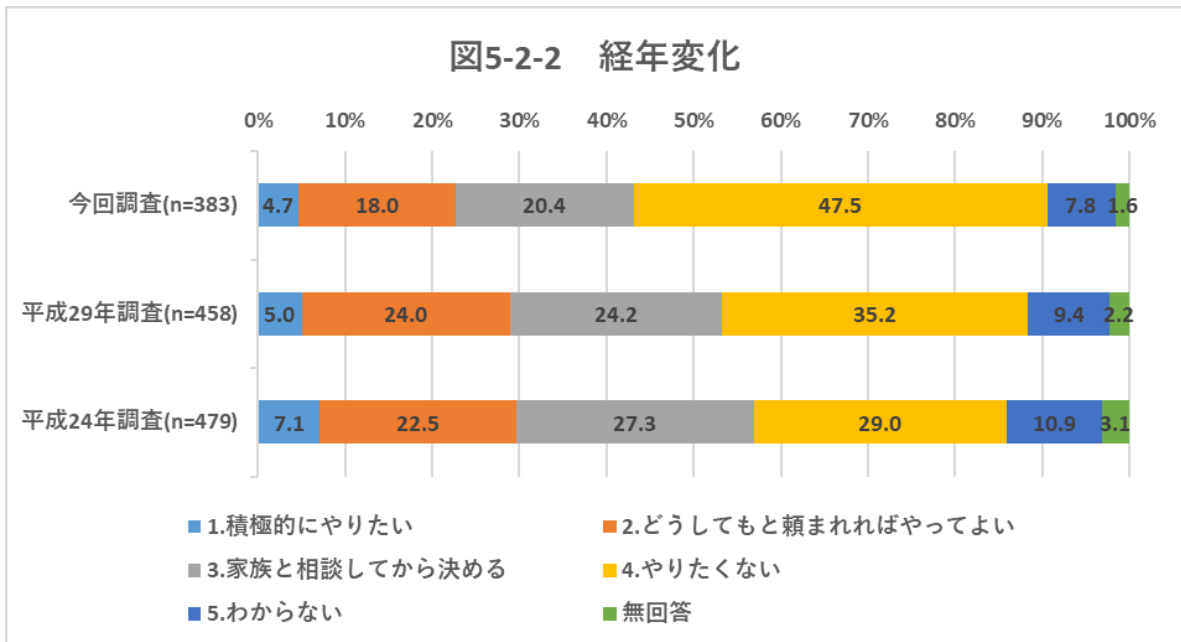
男女別でみると、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」次いで「相談しても無駄だと思ったから」が続いている。女性は「相談するほどのことではないと思ったから」が高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」などが続いている。(図 4-7)



## 5 地域参加・社会参画について

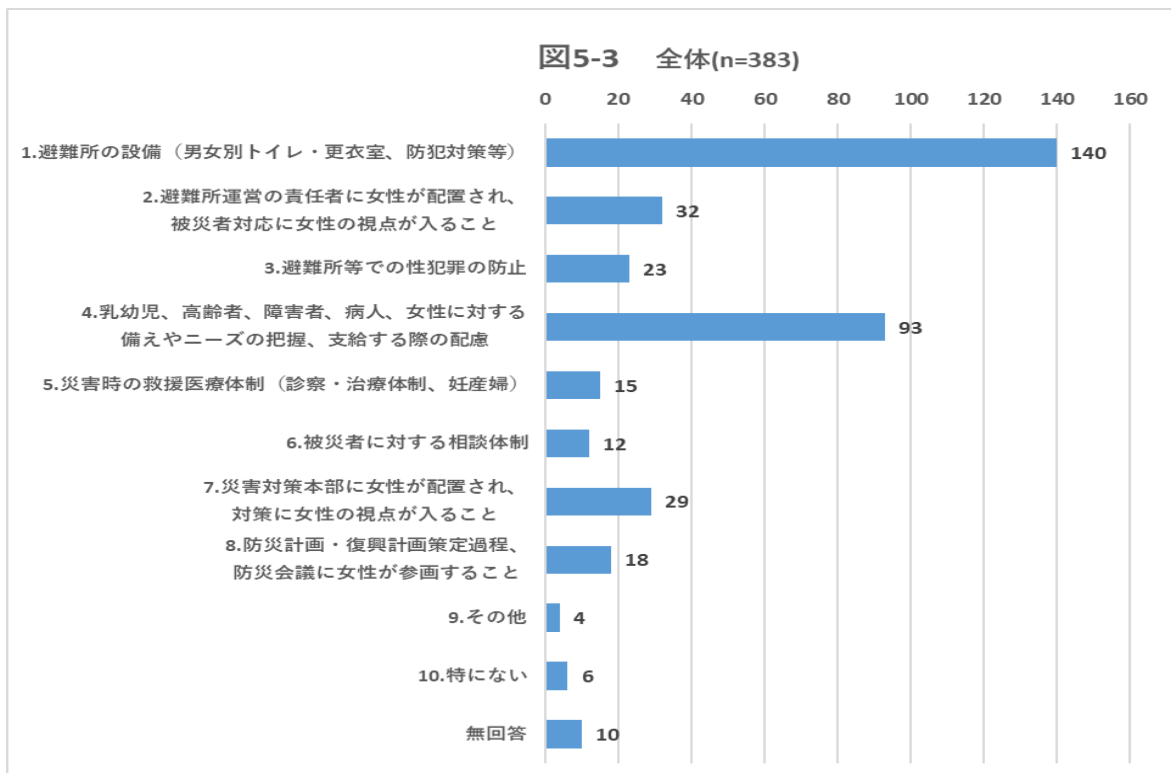
### 地域活動のリーダーへの意欲や考え方

「やりたくない」が年々増加している。「家族に相談してから決める」は年々減少している。



### 防災・災害復興対策として男女の性別に配慮して取り組むべきこと

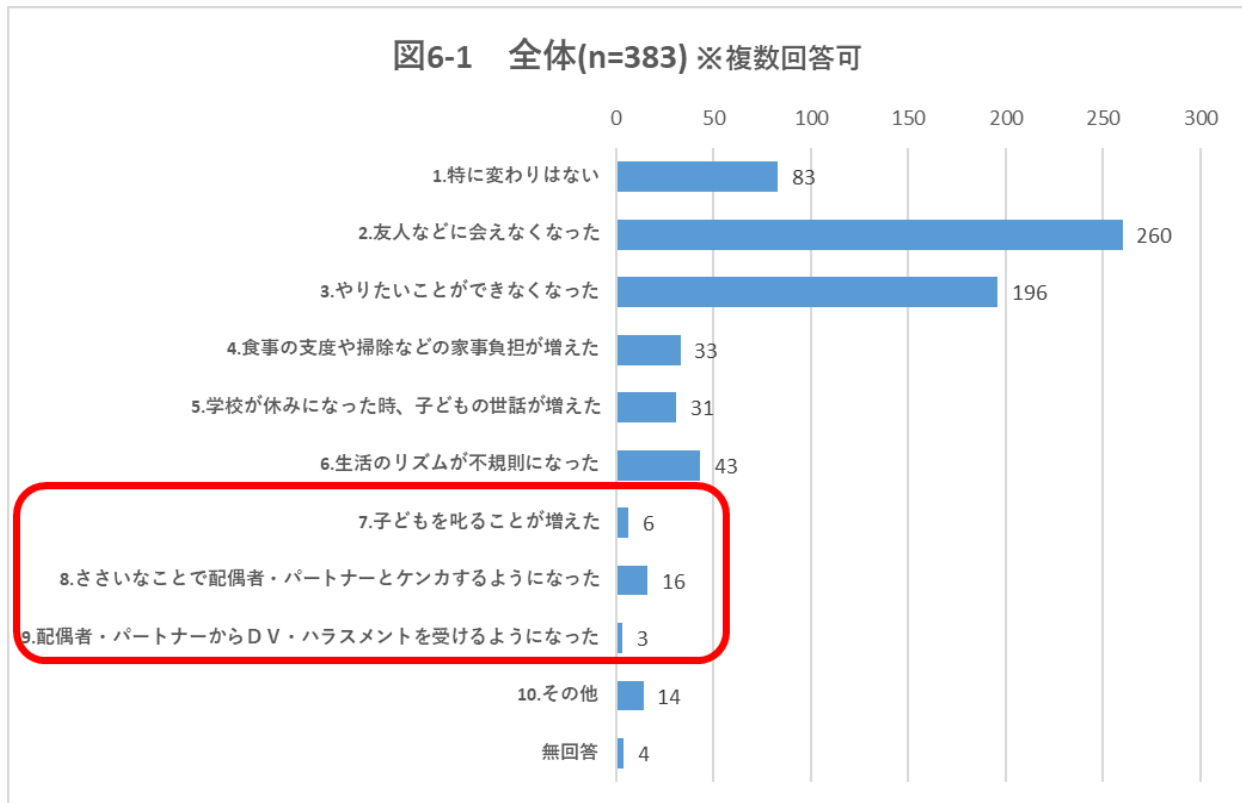
「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」が高くなっている。次いで「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が高くなっている。「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」「災害対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」「避難所等での性犯罪の防止」が続いている。



## 6 新型コロナウイルス感染症の影響について

### 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響での生活や行動の変化

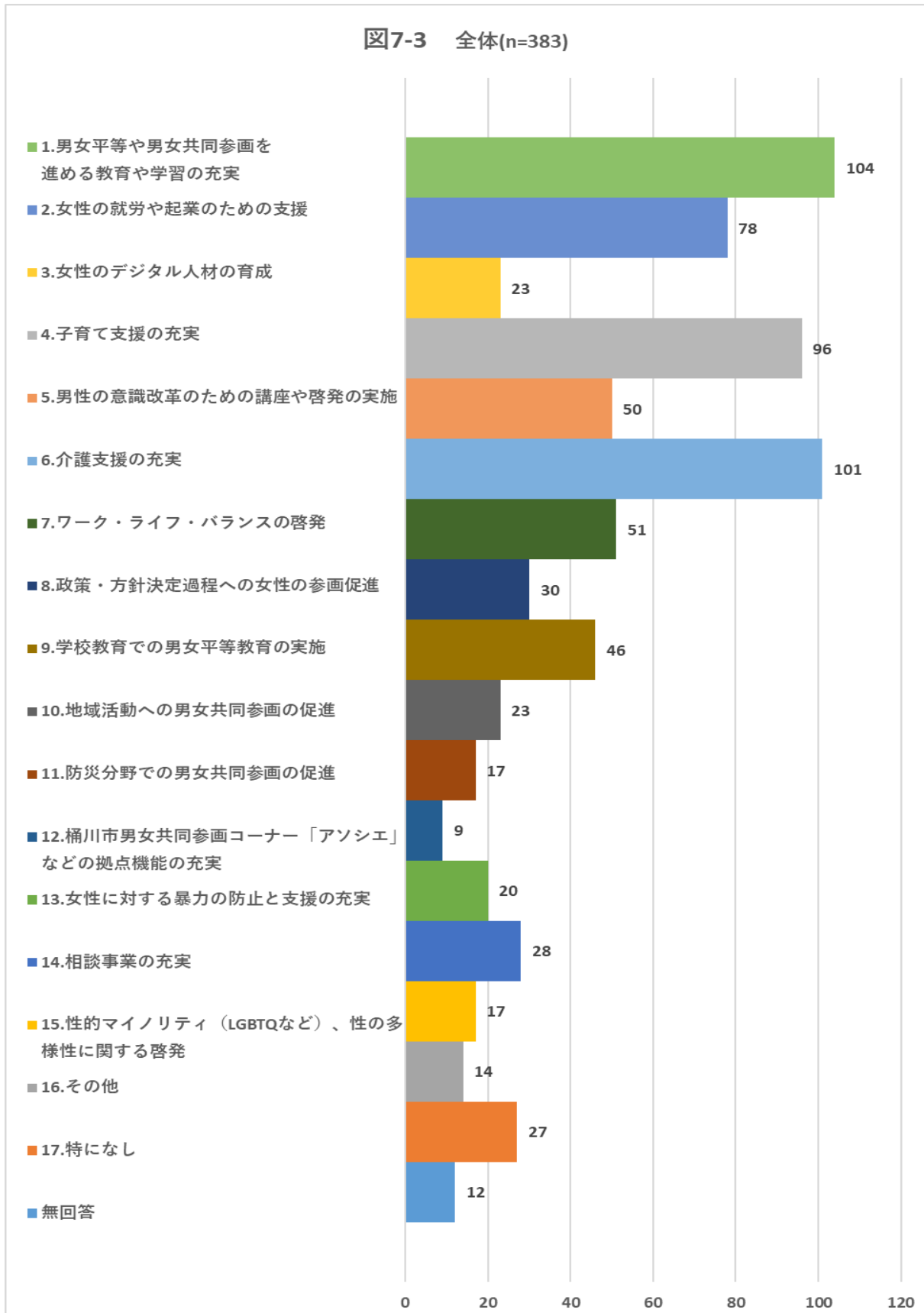
全体では、「友人などに会えなくなった」が高く、次いで「やりたいことができなくなった」が高くなっている。「子どもを叱ることが増えた」「ささいなことで配偶者・パートナーとケンカをするようになった」「配偶者・パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった」も数としては高くなっていないが、無視できない結果となっている。



## 7 男女共同参画を推進するための取り組みについて

### 男女共同参画社会の実現のため市が今後力を入れること

全体では、「男女平等や男女共同参画を進める教育や学習の充実」「介護支援の充実」「子育て支援の充実」「女性の就労や起業のための支援」の順に高くなっている。



令和4年度 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

(概要版)

調査主体 桶川市企画財政部人権・男女共同参画課

〒363-8501 桶川市泉一丁目3番28号

電話 048(788)4907 FAX 048(787)5409



桶川市マスコットキャラクター「オケちゃん」